

市長と地域との懇談会（第3回）議事録

日 時：令和7年10月28日（火）

午後2時から4時まで

場 所：パルティせと マルチメディアルーム

参加者：34名

【主なご意見、提言】

テーマ1：次期将来計画（未来を見据えたまちづくり）について

＜子育て支援・教育の充実＞

子どもの体力向上

子育てしやすい環境、子育て世代への支援

子育ての交流の場の創設

旧小学校跡などに子育て支援センターの新設

デジタルタワー活用、デジタル先進地となる

教育の充実

＜観光振興・地域資源の活用＞

岩屋堂や定光寺、東海道自然歩道の活用

温泉施設の再生

猿投山の有効活用

＜交通整備・まちづくり・住宅問題＞

子ども・高齢者が住みやすいまち、障害の有無に関係なく住みよいまち
行きたい場所がある、人と人がコミュニケーションをとれるまち

子どもと大人、高齢者が集える場所

“ひきこもり”という言葉を理解できるまち

差別のない、新しい住民にやさしいまち

空き家を若者に利用してもらう

空き家活用

交通の便をよくする

コミュニティバスをさらに便利で使いやすく

歩道を広く歩きやすく、シルバーカーの走りやすいまち

移動図書館の利用

＜経済対策＞

企業誘致

＜防災・安全・福祉の強化＞

健康寿命を延ばす

テーマ2：市制施行100周年に向けて

＜大規模イベント・市民参加＞

市民祭

市民も参加する実行委員会作り

カウントダウンまつり

海外交流コンサート

映画のロケ地

100周年記念作品制作、市民参加の陶壁画作り

100周年記念誌、100周年記念映像

土と炎と化学の博覧会

世界遺産申請

大河ドラマの主役を招いてのパレード

＜施設・街づくり＞

図書館を文化公園に

文化施設の拡充

公共施設の充実

＜未来志向のまちづくり・課題解決＞

人を大切にする教育（人材育成）

住宅困難者への支援

＜地域の歴史・郷土愛の再認識＞

姉妹都市との交流

やきものサミット開催

瀬戸の自然を守り、大切にする

意見交換

Q1. 障害者手当の復活は市長の公約にもあったと思う。

A: 本当に必要な人に届くようなやり方を検討している。前の障害者手当をそのまま復活させるということはできないので、もう少し精査しながらしっかりと困っている人についていくということをしていきたい。

Q2. 山口や水無瀬にあるような古くなった市営住宅はどうになっていくのか。毎日暮らす家というのは大切なもののなので、できるだけ人間らしい生活ができるような住宅が確保出来たらよいと思う。

A: 市の方針としては取り壊していく、という方向性。立て替えて作り直すにして

も莫大なお金もかかり、今住んでみえる状況をよくしていくということも今は考えていない。今、住んでみえる方としっかり話をして、この先のことを決めていきたい。

Q3.せと末広町商店街東側にある公設のトイレが長い期間閉鎖になっている。ぜひ直していただきたい。

A:せと末広町商店街にあるトイレについても、こちらもかなり古く壊れてしまっていて、修繕するにはかなりの費用が掛かるということで、今現在としては直して使っていくということにはなっていない。

Q4.瀬戸は全国的に見てもすごくいいまち。自然もあり、インフラにしても、病院施設にしてもいろんな財産、資源もあって住みよいまちだと思う。

子どもに目を向けてみると、日本では今、不登校の子が増えている。若い人たちの自殺の数も先進国の中で一番多い。子どもは自分で解決できない問題をたくさん抱えていて、大人たちに頼らなくちゃいけないというところがあるので、子どもたちの目線でいろいろと考えてもらいたい。子どもたちだったらどんな未来を描いているのか、というところにちゃんと耳を傾けて、こういった新しい街づくりに生かしてもらいたい。

A:子どもたちの不登校については、ここほっとルームというところを各中学校に作った。子どもたちがなるべく引き込もうず、出てこれるようにという場所です。小学校の方でも活用できるので、そういう子たちがいたら、一度ここほっとルームへ行ってみて、という話ををしていただけたら。

子どもたちだけで問題を解決するというのはなかなか難しいことがあると思うし、なかなか相談できない子たちもいると思う。そんな子たちに手を差し伸べて、気にしてあげていただきたい。皆さんに相談を少しでもしてきいたら親身になって考えてあげてほしい、また、市の方にも伝えてもらいたい。市も一緒になって子どもたちを守っていきたいと考えている。

Q5.団地に外国籍の住民の方が増えてきて、ごみの捨て方であったり、規則を守ってもらえない等のことが起こってきている。

A:お互いに尊重し合う、文化を理解し合う、認め合うという作業が必要だと思う。子どもたちと交流していくなど今後も交流を深めてもらいたい。何かあれば市に相談を。

Q6.年に1回でいいので、瀬戸市でウォーキング大会を開催してほしい。尾張旭市、春日井市、長久手市なども開催している。健康のため、地元瀬戸市のことを見る機会とするため、人との交流の場にもなると思う。

A: 健康寿命を延ばすために歩くことを推奨するというのは良いことだと思う。民間の歩け歩け大会ではなく、市の主催での開催とのことですので、また検討していきたい。

Q7. 福祉サービス等を受けるためには、市役所あるいはインターネットなどで申請をしなければならない。精神障害とか、ひきこもりですとか、申請することすらできない、そういう方も大勢いらっしゃるということを念頭に置いていただきたい。また、ひきこもり対策もやってほしい。

A: 申請なしでこちらからサービスを提供するということはできればよいが、やはり市としては申請なしというわけにはいかないので、ある程度のルールを作つて申請があった場合には手厚くフォローをしていくこうという体制となる。代理の方に申請をいただくということになると思うが、そういう方へのフォローを手厚くしていきたい。また、声なき声の方々の一番言いたいこと、何をどうして欲しいかという想いはできる限り掬い上げられる体制をしっかり作っていきたい。

Q8. 外国人の方とのかかわり方の問題、子どもの問題、高齢者の問題等、地域の課題は様々あります。市民活動として様々な分野で専門性を持って活動されている方がたくさんいらっしゃるので、次期将来計画策定にあたって行政だけが市役所だけが頑張るのではなくて、市民と市民活動団体と行政とが一体となって新しい瀬戸と一緒に作り上げていける仕組みを作っていただきたい。

A: 市だけの対応ではどうしようもないことがたくさん出てきている。市民団体さん、一般の市民の方、企業さんともしっかり連携して瀬戸市を作り上げていきたい。そういう仕組みを作っていきたい。

Q9. せとまちツクリテセンターは、この作り手がどんどん後継者がいなくなってしまったり、景気が悪くなっているこの時代に、いろんな補助であったり、発表の場所を提供することを教えてもらえたりする貴重な場所。行政としてこの場所は継続してもらいたい。

A: 現公共施設を統合、統廃合も視野に入れて見直しに入っている。せとまちツクリテセンターが単独で残るというのはこの先難しいかもしれないが、その機能がしっかり残るようにしていきたい。